

1. 2025 年度事業報告総括表

中期計画 ⇒		1. 栄一は自らの生涯において当時の「分断と共生」や「変化への対応」にどう向き合ったのか。現代社会そしてそこに生きる人々に、何らかのプラスとなるヒントを提供する。 2. 財団の活動を将来につなげるべく、「分断と共生」や「変化への対応」に確りと向き合う。			
中期計画における各 G の重点項目		2025 年度事業計画における各 G の計画事項		主な実施事項	
公益事業 1	研究企画グループ	研究者、関係諸機関とのネットワークを再構築し、「論語と算盤」をはじめとして栄一の思想を国内外へ発信	渋沢栄一再考に向けての研究促進	①研究成果の出版	・フィランソロピーシリーズ第 8 巻（文化の継承・創造）の執筆、編集 ・『論語と算盤』英訳（英訳作業、英訳文章の推敲及び検討、刊行スケジュール作成）
		啓発事業の企画・運営		②論語とそろばんセミナー	・「論語とそろばん」セミナー2026 をハイブリッドで開催 ・『論語と算盤』読書会：第 13 期（オンライン）、第 14 期（オンライン）を実施
				③協賛・助成・支援事業	・経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History 出版
公益事業 2	情報資源グループ	テクノロジーの発展を取り込んだデジタルリソースの整備・開発・提供	実業史関連情報資源の開発・提供	①社史関連情報資源の開発・提供	・「渋沢社史データベース（SSD）」：更新（新規データ追加、既搭載データ修正等） ・「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」：更新（名称新規追加・改訂 78 件、既掲載図 9 図改訂等） ・「社史にみる渋沢栄一」シリーズ開始：第 1 回 帝国ホテル、第 2 回 東京ガス（『青淵』と専用サイトに掲載）
			渋沢関連情報資源の開発・提供	②画像資料の収集・情報資源化	・喜賓会関連図像資料収集、渋沢関連絵葉書のウェブ公開準備ほか
			基盤整備	③渋沢栄一関連資料の情報資源化	・デジタル版『渋沢栄一伝記資料』更新、網文英訳（第 13 巻）公開、「渋沢栄一フォトグラフ」関連論文掲載 ・「論語と算盤オンライン」：更新、EAJRS と DH 国際シンポジウムで発表 ・『青淵百話』『論語と算盤』のデジタル化およびイントラネットに掲載 ・「わがまちの渋沢栄一」（3 件）、「曾孫が語る渋沢栄一」（1 件）の記事を公開
公益事業 3	史料館グループ	改正博物館法の趣旨に則った博物館活動の強化や竜門社 140 年等の周年事業を展開	展示活動	①常設展、企画展の実施	・常設展示：「渋沢栄一をたどる」と「渋沢栄一を知る」の展示替え（養育院、商業教育、徳川慶喜、国民外交）、没後 100 年 穂積陳重特集 書跡と手紙(2026 年 2～3 月) ・企画展：「渋沢栄一と喜賓会」、「青淵文庫竣工 100 年 渋沢栄一の“美事なる図書室”」、「竜門社 140 年 青淵先生と初期竜門社の人びと 渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち」 ・その他：「収蔵品展」、大阪市立大開小学校「渋沢栄一肖像画里帰り展」紹介展示
			普及活動	②教育普及活動の実施	・渋沢栄一命日記念事業「青淵忌」の実施 ・渋沢史料館公式 X（19 さん 17 さん）での情報発信 ・「セイコーミュージアム銀座記念講演会」、「日本女子大学公開講座」他 13 件講演等に出講 ・入館パンフレット改訂版（日・英文）、ディスカバリーシート（3 種）の制作 ・オリジナルグッズ（青淵文庫クリスマスオーナメントキット 2 種・2026 年カレンダー）の制作
			資料収集・保存	③館内の環境維持 資料収集、整理、代替資料の作成	・購入：「八十島親徳書簡」、「渋沢栄一書簡 益田孝宛」、「渋沢敬三書簡 長谷川一郎宛」等計 17 件 ・受贈：「御正進作 渋沢栄一関係挿絵」、八十島樹次郎旧蔵資料、穂積律之介旧蔵資料等計 8 件 ・資料複製：「商法会所日記」「商法会所御廃止常平倉御取建之儀ニ付取扱振相伺候書付」
			調査・研究	④渋沢栄一関係や博物館活動の調査研究活動	・渋沢雅英相談役、佐々木紀子氏オーラルヒストリー ・穂積家（陳重、重遠、律之助）資料の整理・大正建築「晩香廬」「青淵文庫」の資料調査 ・企画展・展示のための調査研究活動「竜門社 140 年」、「日米友情人形」等 ・『渋沢研究』、『渋沢史料館年報 2023 年度』の刊行 ・企画展図録『青淵文庫 100 竣工 渋沢栄一の“美事なる図書室”』の制作
	総務グループ	次世代を意識した、会員機関誌『青淵』の見直し	雑誌刊行	⑤『青淵』の刊行	・2025 年 5 月号（第 914 号）～2026 年 4 月号（925 号）を刊行
			「会員」「支部」の位置づけ整理・改革	⑥会員総会の開催、支部講演会の支援など	・第 221 回会員総会・記念講談「渋沢栄一、巴里へ」「渋沢栄一、青い目の人形と答礼人形」開催 ・海匠、野田、仙台、深谷、秋田、山形支部の講演会の支援
		SNS 等の更なる活用 WEB サイトリニューアル検討 外部組織との連携	⑦他団体への協賛、後援、財団全体の広報、英文 WEB サイトなど	・特別展「愛と公益 渋沢栄一が目指した世界」巡回展（4 か所）で開催 ・渋沢栄一賞（共催）、渋沢・クロード賞等への協賛 4 件、渋沢栄一翁・顕彰能「青淵」等への後援 5 件 ・英訳グロッサリー整備	

1-1. 公益事業 1 (研究企画グループ)

① 研究成果の出版

a. 『渋沢栄一と「フィランソロピー」』(全 8 巻)

シリーズ最終巻となる第 8 巻(文化)では、渋沢栄一が生きた時代は文化の大きな転換点であり、変容の時代であったが、その中であって、渋沢が大切にすべき文化の継承と新たな文化創造を並行して多くの事績を積み重ねたことに焦点を当てた。渋沢は文化を芸術・学術などの範疇に限定せず、人々の日常の生活・活動の中で育まれたもの、また、それを成り立たせる事象を広く視野に入れていた。それゆえに、これまであまり論じられてこなかった分野の渋沢の事績に触れることとなり、渋沢に対しての新たな発見につながるものとなっている。研究者 10 名(うち当財団役職員 2 名)で執筆、編集作業を進めた。2025 年度中の刊行を計画したが、2026 年度に延期となり、出版記念学術シンポジウムも 2026 年度開催予定。

b. 『論語と算盤』の英訳

渋沢栄一述『論語と算盤』を英訳して日本のビジネス社会の考え方、日本の資本主義のあり方や経済・経営思想を主に日本企業に勤める外国人や海外の研究者を対象に、また、グローバルに周知することを目的に、2022 年度から着手し、2030 年度までの刊行を目指す。中国古典に精通する守屋淳氏(作家)が英訳のための現代語訳を作成し、2025 年度は全 10 章のうち第 3 章途中まで英訳した。

② 論語とそろばんセミナー

a. 「論語とそろばん」セミナー

2025 年度は「渋沢栄一と社会福祉——渋沢の養育院、日米の社会福祉から現代の若者支援まで」をテーマに、2 つの講演と座談会で構成し、対面形式で東京商工会議所(東商渋沢ホール)にて実施し 100 名の参加者を得た。また、2026 年 2 月 26 日~4 月 7 日までアーカイブ配信を行い、181 名の視聴者を得た。

講演 1 山本浩史氏(新見公立大学健康科学部教授): 明治期から昭和前期までの社会事業史について養育院を中心に展開された。特に子どもたちが養育院に収容されたきっかけを社会的背景からひもとき、渋沢が慈善・社会事業の必要性を強く感じていたことが語られた。また、渋沢の子どもたちへの接し方や養育院での教育、技能伝授によって社会を構築する人に育てようとした事例から、渋沢の忠恕の思いを明らかにした。

講演 2 渋沢田鶴子氏(当財団業務執行理事): 日米の社会福祉や寄付文化の比較から、現代に至る貧困・格差・孤立といった社会問題を再考する講演。アメリカで大恐慌などの影響を受けた人を実業家や財団がどのように支援したか、様々なケースに基づいて語られた。一方、日本では渋沢が欧米の影響を受けつつも、それ以前から社会事業家との連携や養育院などの独自の取り組みを展開していたことが示された。

座談会 今井紀明氏(認定 NPO 法人 D×P 理事長)、荒井佑介氏(特定非営利活動法人サンカクシャ代表理事): 現代の若者の貧困と支援にフォーカスし、若者を取り巻く闇バイトや物価高などの社会問題、そしてそこから抜け出すた

めの具体的な支援策の実践事例が語られた。最終的に社会復帰を目指す支援は、食糧支援や就労支援といった生活を安定させるものから、深夜帯の居場所や外出の機会の提供によるメンタルケアに至るものであり、渋沢に見る忠恕の精神や養育院の取り組みを想起させるものであった。

b. 『論語と算盤』読書会

渋沢栄一述『論語と算盤』を毎月 1 章ごとに読み進め、参加者同士でディスカッションを行い、仕事や経営、教育、研究、生涯学習、地域活動など様々な場面で活かしていくことを目標とするもので、第 13 期はオンライン形式にて 2024 年 8 月～2025 年 7 月（全 11 回）まで参加者 40 名（うち修了者 19 名）で実施した。第 14 期もオンライン形式にて、2025 年 9 月～2026 年 7 月（全 11 回）まで参加者 55 名で実施中。

③ 協賛・助成・支援事業

a. 支援事業

経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History の出版を支援した。

1-2. 公益事業 2（情報資源グループ）

① 社史関連情報資源の開発・提供

a. 渋沢社史データベース（SSD）

渋沢栄一が関与した会社を中心に各社の「社史」の内容を、目次・索引・年表・資料編といったデータから検索できるようにするもので、渋沢栄一の事績に加え、渋沢を取り巻く実業界などの情報を現代に至るまで搭載。2025 年度は関連会社である三共、若築建設、ユウシュウコープ等の社史データ約 11,000 件を追加するとともに、既収録目次データのうち、291 冊分、74,076 件のデータの差し替え、修正を行い、収録社史を 1,644 冊、総データ数は約 255 万件に拡充した。

b. 渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図

渋沢栄一が関与した会社や団体の現在に至る名称の変遷をチャート図により視覚化し、現代社会とのつながりを明確にするもの。2025 年度は名称変更を 6 件追加、掲載中の名称 72 件の典拠情報を改訂した。また、前年度に引き続き事業の継承について再検討を行い、製糖業、化学工業、煉瓦製造業、ホテル業等の計 9 図を改訂した。

c. ウェブサイトおよび『青淵』等での情報発信

イ. 社史にみる渋沢栄一（新規事業）

渋沢栄一が設立・経営に関わった会社の社史、および、社史に書かれた歴史や特色あるエピソード等を通じて、当該会社と渋沢との関わりをシリーズで紹介するもの。初年度の 2025 年度は財団機関誌『青淵』で第 1 回として『帝国ホテル百年史』、第 2 回として『東京ガス百年史』を取り上げたほか、財団ウェブサイトでも専用ページを開設して記事を公開した。

ロ. ビジネス・アーカイブズ

企業におけるアーカイブズ活動は企業倫理の確立に寄与するという考え方が

あり、渋沢の「道徳経済合一」の理念を現代の企業経営に活かすことを目的とするもの。2025 年度は「世界／日本のビジネス・アーカイブズ」にアーカイブズ活動の基礎となるメタデータの最新動向をまとめた「組織の歴史という「パズル」を完成させるために：組織アーカイブズにおけるメタデータの機能と国際標準」を掲載したほか、「実業史リンク集」（日本語・英語）の内容をアップデートした。

② 画像資料の収集・情報資源化

渋沢敬三の「日本実業史博物館」構想による収集資料中、際立って特徴的な錦絵や、その後継資料となる絵葉書等の視覚的な資料に焦点を当てるもの。2025 年度は「実業史錦絵絵引」のシステムを維持管理するほか、喜賓会関連画像資料 1 点を収集し、実業史関連絵葉書コレクションの公開準備を進めた。

③ 渋沢栄一関連資料の情報資源化

a. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』『渋沢栄一ダイアリー』『渋沢栄一フォトグラフ』
デジタル版『渋沢栄一伝記資料』では、運用するウェブサーバーの移転およびセキュリティ強化（④b.参照）に伴い、PukiWiki ほかシステムのバージョンアップ等改修を行った。また、著作権調査の成果を反映して資料公開を促進するとともに、2025 年度事業成果（『青淵』掲載記事ほか参考文献の追加）を掲載した。さらに、デジタル版『渋沢栄一伝記資料』のマスターデータを管理する「渋沢栄一関連情報データベース」の完全アクセス権を制作会社より取得し、同データベースを再整備する準備を整えた。

「渋沢栄一フォトグラフ」について、『情報の科学と技術』Vol.75.No.11（2025 年 11 月）に論文「市民参加型の写真デジタルアーカイブの構築と活用：みんなで古写真【渋沢栄一伝記資料】（渋沢栄一フォトグラフ）」を執筆した。

b. 『渋沢栄一伝記資料』の網文英訳

渋沢栄一関連情報の国際的な発信の充実・強化を目指し、『渋沢栄一伝記資料』第 1 巻から第 12 巻に続き、第 13 巻の網文を英訳してウェブサイトで公開した。

c. 『論語と算盤』再版（東亜堂書房, 1916.09）のデジタルアーカイブ化

2023 年度に開設した「論語と算盤オンライン」を更新し、出典記事 42 件、および『青淵百話：縮刷』掲載記事 22 件分のページ画像を新たに公開、あわせてデジタル版『渋沢栄一伝記資料』等へのリンクを追加するなど内容の充実を図った。また、『論語と算盤』および出典記事の TEI/XML ファイル 75 件を、出典を明記すれば自由に使える「クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0」のもとで公開し、中期計画の「デファクトスタンダードに基づいた汎用性のある情報資源の開発と持続的な提供」および「AI の活用等も視野に、誰もが利用しやすい情報資源の発信を強化」を達成するための土台を築いた。

第 35 回日本資料専門家欧州協会年次大会（EAJRS）や DH 国際シンポジウム「東アジア／日本における人文学向けテキストデータ構造化のためのガイドライン策定に向けて」でプレゼンテーション等を行ったほか、『青淵』に関連記事を執筆し、国内外での普及・活用促進を図った。

d. ウェブサイトおよび『青淵』等での情報発信

「わがまちの渋沢栄一」は『青淵』に記事 3 件（「明治七年ガス灯の道を歩く」「一橋大学のルーツを訪ねて」「竜門社支部」）を掲載し、ウェブサイトにはリンク等を追加して公開した。「曾孫が語る渋沢栄一」には「China and Shibusawa Eiichi in History」（「歴史的視野の中の渋沢栄一」の英訳）を掲載、「情報資源センターだより」では『渋沢栄一伝記資料』関連情報等を発信した。

④ 渋沢栄一・実業史研究基盤の整備

a. ウェブサーバーの移転

デジタルアーカイブやデータベースを公開するための基盤となるウェブサーバーが老朽化したため、最新のウェブサーバーへ移転し、高速化を図るとともにセキュリティ対策を強化することで、中期計画の実現に必要な基盤整備を行った。

b. 参考文献資料の拡充

渋沢栄一・実業史関連文献等 334 点を収集したほか、書誌データ 1,162 点を作成し、資料 1,456 点分を蔵書データベースへ登録。さらに作成データから「渋沢栄一関連文献」新着リストを作成し 1,163 件の情報を財団内で共有することで、情報資源と研究基盤の強化を図った。

c. 機関リポジトリ、『竜門雑誌』記事索引

渋沢栄一・実業史関連情報をはじめ、これまで財団が蓄積してきた事業の成果を社会に還元すべく、機関リポジトリの構築と公開準備を行った。また、『竜門雑誌』掲載記事等を網羅的に収載した「『竜門雑誌』記事索引β版」（試行版）を作成し、リポジトリでのインターネット公開に先立ち、財団イントラネットで公開した。

d. その他

資料保存対策として 95 点の文献資料を専用の保存箱（ISO 16245:2009、ISO 9706:1994、ISO 18916:2007 準拠）に収納、あわせて収蔵庫・書庫の安定的な保存環境の整備を目指した。そのほか、財団刊行物 72 点のデジタル化および機関リポジトリの公開準備、財団内外からの各種レファレンス対応、図書館や人文情報学関連団体が主催するイベントでの登壇を含む年次大会やシンポジウムへの参加・聴講などを行った。

1-3. 公益事業 3（史料館グループ・総務グループ）

① 常設展、企画展の実施

渋沢史料館の 2025 年度の入館者数は 33,675 名で、新一万円札発行のあった 2024 年度に比べると減少したが、コロナ禍以前（2017 年度、2018 年度）に比べて 2～3 割増加した。

a. 常設展

常設展示「渋沢栄一をたどる」の展示資料を中心に一部展示替えを行った。また、「渋沢栄一を知る」の展示替えを行い、2025 年 4 月から一橋大学創立 150 年、服部金太郎

との交友をテーマに、2026 年 2 月からは、養育院、商業教育、徳川慶喜、国民外交との関わりを紹介する展示を行った。

また、2026 年 2 月初～3 月初まで、「没後 100 年 穂積陳重特集 書跡と手紙」をテーマに展示を行った。

b. 企画展

2025 年 2 月～5 月に企画展「渋沢栄一と喜賓会—明治時代のインバウンド—」と題し、外国人観光客誘致と旅行者支援を目的に設立された喜賓会の活動とともに、栄一がどのような思いで事業に尽力したのかを探る展示を行った。

10 月～11 月には、企画展「青淵文庫竣工 100 年 渋沢栄一の“美事なる図書室”」を開催し、竜門社の人々から栄一に贈られた青淵文庫竣工 100 年の節目に文庫を愛した栄一の思いとともに、竜門社の人々の栄一への思いを伝えた。

また、企画展「竜門社 140 年 青淵先生と初期竜門社の人びと 渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち」の準備・設営を行った。展示では、明治 19 年（1886）に創立されてから 140 年の節目に、竜門社が同人組織だった時代を「初期竜門社」と位置づけ、その中心だった渋沢家の書生出身社員の活動の様子や成長に焦点を当てた。

② 渋沢栄一に関する教育普及活動の実施

渋沢栄一を学べる博物館として幅広い層を対象に各種の普及活動を行った。

a. 青淵忌

渋沢栄一の命日（11 月 11 日）を記念して特別企画「青淵忌」を開催し、入館料無料とした。当日、史料館において映像「故渋沢子爵葬儀の実況」の上映を館長による解説付きで行った。また、谷中霊園において渋沢栄一の墓所に墓参された 161 名に記念品をお渡しした。

b. 情報発信

渋沢史料館公式 X（19 〈イッキュー〉さん 17 〈イーナ〉さん）で、渋沢栄一や史料館情報を随時発信した。

c. 「渋沢史料館のご案内」パンフレット、ディスカバリーシート、下敷きの作成

「渋沢史料館のご案内」パンフレットを改訂し、2 種（日本語・英語）を制作した。また、ディスカバリーシート vol.8「関東大震災発生」、vol.9「第一国立銀行の開業」、vol.10「栄典」を制作した。渋沢栄一を紹介する教育普及用の下敷きの増刷を行った。

d. オリジナルグッズの制作・販売

「青淵文庫クリスマスオーナメントキット」（2 種）、「渋沢史料館カレンダー 2026」のオリジナルグッズを制作、販売した。

e. 外部講演・資料提供など

日本女子大学生涯学習センター公開講座（テーマ「青淵文庫竣工 100 年 渋沢栄一の“美事なる図書室”見どころ」）、国文学研究資料館主催の上廣・国文研アーキビスト養成セミナー 2025（テーマ「渋沢敬三と資料収集」）など、自治体、大学、博物館・資料館、企業その他団体による講演会、講座の講師を 13 件担当した。

セイコーミュージアム銀座が開催した企画展「服部金太郎と渋沢栄一～二人が目指した近代日本～」に資料提供などで協力し、あわせて会期中に開催された記念講演会（テーマ「時計王・服部金太郎と渋沢栄一～公益事業における協業～」）の講師を担当した。

一般社団法人古河市兵衛記念センター足尾銅山記念館常設展示、東京都公文書館企画展「渋沢栄一と東京」、東京国立近代美術館及び和歌山県立近代美術館「下村観山展」などに資料提供などで協力した。

第 98 回 COMIC（産業文化博物館コンソーシアム）で「近代建築を活用する博物館の実態」をテーマに報告した。

そのほか、テレビなどメディアへの出演も行った。

f. その他

博物館法改正に伴う登録博物館の再登録を行った。1982 年の開館以来、据え置いてきた入館料の改定について検討し、実施に向けた準備を行った。

③ 館内の環境維持、資料収集、整理、代替資料の作成

「八十島親徳書簡」、「渋沢栄一書簡 益田孝宛」、「渋沢敬三書簡 長谷川一郎宛」、書籍などを購入した（17 件）。

また、「御正進作 渋沢栄一関係挿絵」、八十島樹次郎旧蔵資料、穂積律之介旧蔵資料などを受贈し、所蔵資料の充実を図った（8 件）。

写真や美術工芸資料の整備では、青淵文庫、鮫島純子氏旧蔵アルバム、渋沢邸図面、『アメリカへ行ったお人形の日記』などを撮影し、デジタル化を進めた。

常設展の展示資料で代替資料がないものについて、2025 年度は、複製 2 点（「商法会所日記」「商法会所御廃止常平倉御取建之儀ニ付取扱振相伺候書付」）を制作した。

渋沢栄一像（長沼守敬作、渡辺長男作）の保守作業を実施した。

収蔵庫・書庫・展示室などの虫・黴対策として、館内環境調査や収蔵庫・書庫の特別な清掃を専門業者に委託して実施し、環境の維持に努め、新規収集資料などの燻蒸を行なった。

国指定重要文化財の「晩香廬」「青淵文庫」については動態保存に努めた。なお、来館者・従業員の熱中症予防対策及び健康維持のため、2025 年 8 月 1 日～9 月 30 日まで、「晩香廬」の内部公開を休止した。

④ 渋沢栄一関係や博物館活動の調査研究活動

渋沢雅英氏（当財団相談役）、佐々木紀子氏のオーラルヒストリーおよび所蔵資料の調査ならびに穂積家（陳重、重遠、律之助）資料の整理を実施した。また、大正建築「晩香廬」「青淵文庫」の資料調査を実施した。企画展「竜門社 140 年」、2027 年開催予定の「日米親善友情人形 100 周年」展（仮題）の調査研究を行なった。

渋沢史料館の事業報告とあわせて学芸員の調査研究成果を示す論稿、展示記録などを掲載する『渋沢史料館年報 2023 年度』や外部の研究者との研究会の紀要である『渋沢研究』第 38 号を刊行した。企画展「青淵文庫竣工 100 年 渋沢栄一の“美事なる図書室”」の図録を刊行した。

全国の博物館・資料館への展示協力、外部メディアへの資料協力や助言、様々な年代の方々から幅広い内容の栄一に関わる問い合わせ対応を行なった。また、所蔵資料貸出

等のデジタル対応について検討を行なった。

⑤ 『青淵』の刊行

竜門社会員向けの機関誌『青淵』は 1949 年から刊行しており、2025 年度も毎月、発行した。

2025 年 5 月号 (914 号) ～2026 年 4 月号 (925 号) : 発行部数 : 2,800 部/月

⑥ 会員総会の開催、支部講演会の支援など

a. 会員総会

第 221 回 会員総会を開催し、会員 46 名が出席し、事業報告の概要を説明した。閉会后、講師 田辺一邑先生、神田あおい先生をお招きし、記念講演会を開催した。

日 時 : 2025 年 10 月 6 日 15:30～16:00 (会員総会)
 16:00～17:00 (記念講演会)
 17:15～19:45 (懇親会)

演 目 : 「渋沢栄一、巴里へ」田辺一邑先生
 「渋沢栄一、青い目の人形と答礼人形」神田あおい先生

会 場 : 日本工業倶楽部

b. 支部の状況 (2026 年 3 月末現在)

支部名	個人会員数	団体会員数
野 田	22	0
深 谷	191	23
岡 谷	1	0
京 都	4	5
仙 台	7	8
酒 田	6	0
秋 田	30	2
茨 城	22	3

支部名	個人会員数	団体会員数
香 取	2	0
宇都宮	14	0
小 諸	0	1
氷 見	1	0
山 形	1	0
盛 岡	2	2
海 匝	29	4
白 河	2	2
16 支部	334 人	50 団体

c. 支部講演会

支部名	開催日	講演内容
海 匝	2025.4.25	「トランプ大統領再登場と日本-べらぼうな世界をどう生き抜くか」 講師：木村昌人氏 (東アジア文化交渉学会 評議員)
野 田	2025.8.22	「円滑なコミュニケーションの極意」 講師：吉川美代子氏 (フリーアナウンサー)
秋 田	2026.1.20	「最近の経済動向と 2026 年の展望」 講師：種村知樹氏 (日本銀行 秋田支店)
深 谷	2026.2.8	「渋沢栄一と養育院の子供たち ～「院長さん」のお話～」 講師：清水裕介氏 (渋沢史料館 学芸員)
仙 台	2026.2.18	「オレ流 人の育て方、勝てる組織の作り方」 講師：落合博満氏 (野球評論家)

山形	2026.3.13	「渋沢栄一と日米関係・民間外交」 講師：渋沢田鶴子氏（渋沢栄一記念財団 業務執行理事）
----	-----------	--

d. 維持会員数・会費収入 (会費収入は千円単位)

年度末	個人会員		団体会員			会費収入 合計
	人数	会費収入	社数	口数	会費収入	
2023	1,130	5,535	241	1,261	12,640	18,175
2024	1,054	5,313	235	1,252	12,640	17,953
2025	991	4,935	239	1,233	12,330	17,265

e. 寿杖

1923年4月29日の第69回春季会員総会で、満83歳の渋沢栄一に第1号の杖を贈呈したことに始まり、80歳以上で申込み頂いた個人会員を対象に「寿杖」を進呈（費用の一部を本人負担）しており、累計では2,096本。2025年度の進呈はなし。

⑦ 関連事業・広報活動

a. 関連事業

イ. 特別展「愛と公益 渋沢栄一が目指した世界」の巡回展を以下の4か所で、各会場を管理する法人の協力を得て実施した。

東京都北区／ジェイトエル ギャラリー	4月22日～5月18日
第一生命ホールディングス(株)・第一生命保険(株) ／第一生命ギャラリー	6月23日～7月4日
東京都板橋区／中央図書館1階図書館ホール	7月5日～7月17日
新潟市東区社会福祉協議会・やまなみ工房 ／新潟駅南口 CoCoLo 南館1階 MOYORe:	10月4日～10月12日

(i) 巡回展 トークイベント

日時：2025年10月11日 13:00～15:50

会場：新潟市民芸術文化会館りゅーとびあ能楽堂

主催：公益財団法人渋沢栄一記念財団、株式会社ヘラルボニー

共催：社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房、新潟市東区社会福祉協議会

ライブアート：アーティスト吉田陸人

第1部：亀山紘治×山下完和、川上修史 (MC)

第2部：原田正樹×渋沢田鶴子、川上修史 (MC)

ロ. 第24回 渋沢栄一賞

(主催：埼玉県・深谷市・当財団)

多くの企業設立・育成と社会事業に尽力した渋沢栄一の生き方や功績を顕彰し、その理念を現代に継承することを目的とする賞。企業活動と社会貢献を両立させ、地域に根差した取り組みを実践する全国の企業経営者に贈るもの。表彰式は2026年2月にソニックシティ国際会議室にて実施。

受賞者	東 英弥氏 (学校法人先端教育機構 理事長)
-----	------------------------

	井内英夫氏（アズワン株式会社 前会長） 加藤 勇氏（和光産業株式会社 代表取締役）
--	--

ハ. 第 37 回 アジア・太平洋賞

（主催：毎日新聞社・アジア調査会、協賛：当財団・他、
後援：外務省・文部科学省・経済産業省）

アジア・太平洋地域の政治、経済、外交、社会、文化などについて優れた著書を発表した研究者や実践者に贈るもの。表彰式は 2025 年 11 月に出版クラブホールにて実施。

大賞	鈴木隆氏（大東文化大学東洋研究所教授） 『習近平研究—支配体制と指導者の実像』
特別賞	齋藤達志氏（防衛研究所戦史研究センター史料室所員） 『完全版 沖縄戦—大戦略なき作戦指導の経緯と結末』
特別賞	國分典子氏（法政大学法学部教授） 『憲法からみた韓国—「民主共和国」とは何か』
特別賞	塩出浩之氏（京都大学大学院文学研究科教授） 『琉球処分—『沖縄問題』の原点』

ニ. 第 42 回 渋沢・クロードル賞

（主催：日仏会館・読売新聞社、協賛：学校法人帝京大学・当財団、
後援：在日フランス大使館）

日仏会館の創立者である渋沢栄一とポール・クロードルを記念し、日仏両国において、それぞれ相手国の文化に関してなされた若手のすぐれた研究成果に対して贈るもの。第 42 回は、日本側の表彰式・受賞記念講演会は 2025 年 7 月に日仏会館にて実施。フランス側の授賞式は 2026 年 1 月にパリ駐仏日本大使公邸にて実施。

日本側 本賞	貝原伴寛氏 『猫を愛でる近代—啓蒙時代のペットとメディア』
日本側 奨励賞	藤原翔太氏 『ブリュメール 18 日—革命家たちの恐怖と欲望』
フランス側	ナタン・ベリド氏 『日本の最高裁判所における司法権の行使—日本における法の支配を考える』

ホ. 大正大学第 13 回鴨台祭

（主催：大正大学第 13 回鴨台祭実行委員会）

2025 年 6 月 7 日～8 日に大正大学で開催された学園祭「第 13 回鴨台祭」でのイベント参加者への景品として、渋沢史料館入館券 30 枚を協賛した。期間中の総観客動員数は 10,530 人。

ヘ. 第 12 回渋沢栄一クイズラリー

（主催：王子飛鳥山界限いい店&老舗の会、協賛：当財団）

渋沢栄一の「地域が元気でなければ国自体は元気にならない」の考えを基に行われるイベントで、渋沢栄一と王子飛鳥山地域について学ぶ機会の創出と地域活性化を目的としたもの。王子飛鳥山地域の店舗、公共施設等 26 か所に設置されたクイズに回答し、全問正解すると「渋沢栄一マイスター認定証」と記念品を贈呈する。開催期間は 2025 年 11 月 2 日～12 月 25 日。授賞式は 2026 年 2 月 22 日に七社神社にて行われた。全問正解者数は 48 名。

ト. 英訳グロッサリー整備

プロジェクトチームにより 7 回打合せを開催し、運用ガイドライン案作成等を行った。2026 年度も継続する。

b. 後援活動

- イ. 渋沢栄一翁・顕彰能「青淵」（主催：渋沢栄一翁・顕彰能「青淵」制作委員会）
- ロ. 徳川家臣団大会 2025（主催：徳川みらい学会）
- ハ. 「戦後 80 年記念～渋沢栄一の願いとは～」(主催：歌で伝える歴史文化の会)
- ニ. 渋沢栄一ひとづくりフォーラム 2025
(主催：渋沢栄一ひとづくりカレッジ事務局)
- ホ. 財団 100 周年記念事業「道経一体 経済・経営シンポジウム in 東京」
(主催：公益財団法人モラロジー道德教育財団)

1-4. 運営体制の充実を図る取組

規程類整備を通じた態勢整備

2022 年より、規程類の整備を通じた財団の態勢整備を開始。現状確認や整備対象規程の特定を行い、実際の改定を実施後の周知徹底に至るまで、以降、順次対応を実施している。

2025 年度については、上記観点に加え、認定法や育児・介護休業法の改正等も踏まえ、以下規程類の改制定を実施。

「定款」、「給与規程」、「リスク管理規程」、「就業規則」、「臨時職員就業規則」、「育児・介護休業等に関する規則」、「特定費用準備資金等取扱規程」、「文書管理規程」

2. 事業報告の附属明細

2025 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。